

2021 (令和3) 年度 福岡県立大学 公開講座 I

不登校・ひきこもりサポートセンター主催

「ヤングケアラー～実態、理解、早期発見と支援～」

(全3回)

報告書

福岡県立大学 不登校・ひきこもりサポートセンター

ヤングケアラー ～実態、理解、早期発見と支援～ 令和三年度 公開講座 I



第1回目 令和3年11月8日(月)～11月21日(日)
Vimeoにて動画配信

第2回目 令和3年11月22日(月) 14時～16時
Zoomによるオンラインディスカッション

講師: 門田光司 (久留米大学文学部社会福祉学科 教授)

第3回目 令和4年1月13日(木) 14時～16時
Zoomによるオンラインディスカッション

講師: 高口恵子 (大牟田市子ども未来室子ども家庭課 課長)
高口恵美 (福岡県教育委員会 スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー)
坂口明夫 (社会福祉法人甘木山学園 こども家庭支援センターあまぎやまセンター長/大牟田市子ども支援ネットワーク会長)

※ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」を指します

ヤングケアラーの実態に関する調査研究(中西三)の生活実態に関するアンケート調査より

本公開講座は、田川市・福岡県立大学包括連携協定に基づき、田川市から一部助成を受け実施しました。

第 1 回 : 事前録画の動画による申込者への限定配信

動画公開期間: 令和3年 11 月 10 日から令和 4 年 1 月 31 日まで

方法: Vimeo(動画)による申込者への限定公開

講師: 門田光司氏(久留米大学文学部教授)

テーマ: 「ヤングケアラー～ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告を含めて～」

参加者(Vimeo 閲覧者)数: 94 名(うち田川市在住・在勤者 10 名)

講座概要: 講座は事前録画を行い、申込者への動画期間限定公開として展開した。講座の内容は、「ヤングケアラー」の実態として、2021 年 3 月に三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングから報告が出された「令和 2 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業『ヤングケアラーの実態に関する調査研究』」に調査研究メンバーとして参画した、当不登校・ひきこもりサポートセンター初代センター長で、現在久留米大学文学部教授の門田光司氏による、報告書の内容を含めた講義であった。また、日本とイギリスの比較による法整備の遅れと課題の提起もなされた。なお動画受講者へは、第 2 回につながる質問を受け付けた。

講座風景(動画の一場面):

調査研究の目的
これまで、「ヤングケアラー」に関する調査研究では、各市区町村の要保護児童対策地域協議会を対象にヤングケアラーの実態調査を行うとともに、ヤングケアラーを早期発見・支援に活用するためのアセスメントやガイドラインの作成等を行ってきた。

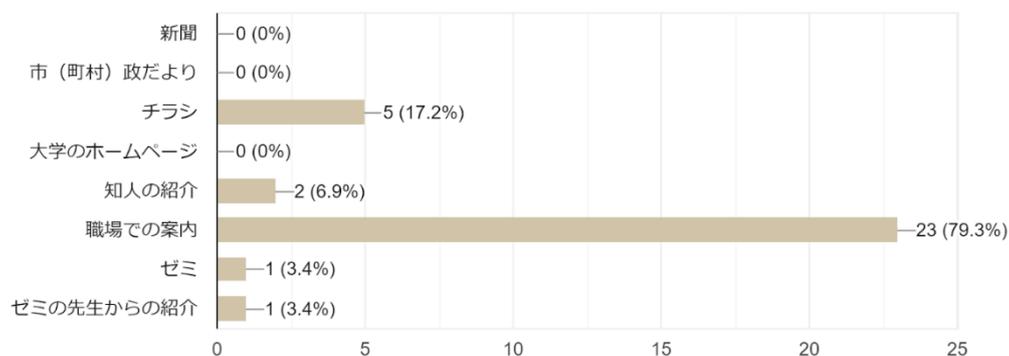
氏名	所属
山田 祥平	久留米大学 文学部 社会福祉学科 助産
山田 祥平	久留米大学 文学部 社会福祉学科 助産
山田 祥平	久留米大学 文学部 社会福祉学科 助産
山田 祥平	久留米大学 文学部 社会福祉学科 助産
山田 祥平	久留米大学 文学部 社会福祉学科 助産
山田 祥平	久留米大学 文学部 社会福祉学科 助産
山田 祥平	久留米大学 文学部 社会福祉学科 助産
山田 祥平	久留米大学 文学部 社会福祉学科 助産
山田 祥平	久留米大学 文学部 社会福祉学科 助産
山田 祥平	久留米大学 文学部 社会福祉学科 助産

※次頁からのアンケートの自由記述について、寄せられた回答すべてを掲載し、一部は個人が特定できないように加工(修正)しております。ご了承ください。

アンケート結果(回答者数 29 名):

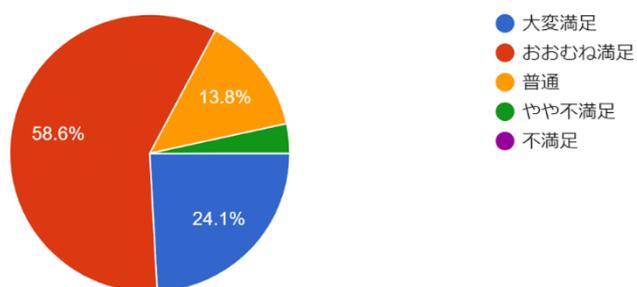
今回の公開講座を知ったきっかけを教えてください。(複数回答可)

29 件の回答



今回の受講講座(第1回:動画配信)についての印象はどうでしたか?

29 件の回答



今後、本学の公開講座に参加したいと思いますか?

29 件の回答



今回(第1回)の講座についての意見・感想、講師への質問(27件の回答)

- ・一定数のヤングケアラーがいることが予測されるが、実態が見えてこないことについて、周囲の大人の関わり方、いかにSOSを拾い上げていくことができるかが重要だと感じた。
- ・ヤングケアラーの実態把握はよくわかりました。今後の支援方法が早急に必要だと強く感じました。当たり前のように家事手伝い、弟妹の世話をしておる生徒がいます。それを行わないと家庭が回らないのもわかっており、それを生きがいにもしているようにも見られます。話を聞いて、見守るしかなく悔しい思いをしております。ケースバイケースの支援でするので大変だろうとは思いますが、その子たちに必要な支援ができるようになることを祈っています。
- ・ヤングケアラーの基礎知識や、課題と支援について、国の実態を踏まえてご説明頂き大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・子供がケアを行なっている現状がこんなにもあるという事を初めて知った。子供がケアを行わなくて良いようなサポートが根本的に必要であると感じた。また、SSWや学校で連携し、早期発見に努めて行くことがとても大事だと感じた。しかし、私も今回の講義でヤングケアラーについて初めて知ったため、まずは、自分たちがヤングケアラーであるという認識や知識を本人達に持ってもらうことが必要であると感じた。そのためにも、ヤングケアラーについてもっと認識を深められるような活動も必要なのではないかと感じた。
- ・ヤングケアラーの実態や支援の鍵となるSSWのこと、また、SSWの配置形態による支援の成果等、大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ヤングケアラーの実態について、理解できました。実際に、ソーシャルワーカーと学校が動かれて、対応された事例などがあつたらお聞きしたいです。学校としては介入しづらく、また、行政がそんなに動いてもらえるわけでもなく、困っている生徒が、支援を受けにくい環境にあるように思います。どのような支援があるのかも知りたいです。
- ・最近ヤングケアラーについての問題が増えましたが正しい認識がなく今回の講座で勉強したくて参加させていただきました。ありがとうございました。
- ・ヤングケアラーについて体系的かつ俯瞰的に理解することができました。
- ・中学生・高校生のヤングケアラーに関する実態の資料が紹介されていましたが、小学生でもヤングケアラーに該当するような状況もあり、小学生等の実態の調査もされているのであれば紹介していただきたいです。
- ・中高生ヤングケアラーの実態調査結果が興味深かった。
- ・ヤングケアラーという言葉は2、3年前から耳にするようになり、学びを深めたい気持ちで今回参加しました。
- ・講座を視聴する中で、これまでに関わった児童が思い浮かばれ、もっと前から知っていたらできる支援があつたと悔しい気持ちになりました。

・これからも、学校で働く者として、今回の講座、ディスカッションを学び多きものにしたいと思います。ありがとうございました。

・そもそもの【ヤングケアラー】とはについて知ることができました。講義の中で、日本文化の【自助、共助、公助】の精神がゆえに、家族の課題は、家族で解決するモノという考えがあるが故に、きついことは当たり前。というところで、自身がヤングケアラーである事を自覚できていないという表面化に出てきていない子達もいるのだと感じました。また、保護者に課題(育児放棄等)があり子どもの教育を受ける権利が阻害されている場合と、家族が支え合っているけど子どもの力を借りないとやっていけないため苦しんでいる場合。二つのパターンのヤングケアラーがあることも初めて知りました。この家族には、医療が必要なのか、福祉事業が必要なのか…考える基準を頂いたような気がします。

・今回の講義で、現状を知るということができたように思います。

・今後は、現状を知った上で、学校でできる支援対策について事例等踏まえ受講できたらと思います。ありがとうございました。

・ヤングケアラーの実態について知ることができた。

・今回は数字による実態の知り方であった。教育関係者として考えさせられたことは、困り感を感じていない当事者にどうやって困り感に気づいてもらうかである。これは、特別に支援を要する生徒やその保護者と相対するときも同じであり、そこにも同様の悩みがある。また、根幹にある素朴な問いとして、当事者が困り感を感じているときに初めて周りが支援できるものではないだろうか。その場の環境や状況で完結している場合に、他者が介入を及ぼすことがその当事者にとってのよりよい生となるのか、というものがある。閑話休題。当事者に対する教育関係者としての適切な寄り添い方と困り感の適切な掘り起こしについて、本講座を学び終わったとき自分なりの視座を持てたらいいなと思っています。

・福岡市内の69の学校にSSWが配置されている割に、職場(県立高校)での生徒への聞き取りをすると、生徒が下のきょうだいによる家庭内でのDVなどが多く、中学校でも児相でも対応してくれなかった、または事態の好転が無かったと残念な聞き取りが多いです。特に発達障害と不登校が一緒になった生徒の家族へのケアが無いのでは。

・私が学校現場で関わる子どもたちは、様々な家庭環境の中で生活をしている事が多く、厳しい環境の中でも一生懸命学校に登校して来てくれています。中には、ヤングケアラーの子どもさんもいます。私は、子どもたちが学校に来られることが当たり前ではないと思っています。だから、様々な思いをもちながらも学校に来てくれた子どもたちが、安心できる居場所づくりをしたいと考えています。今回の講座を受けて、学校の中にも、子どもたちが安心して何でも話ができる関係や環境づくりが、とても重要だと感じました。そして、学校だけでなく、SSWや関係機関と連携しチームで対応していくことが大切だと改めて感じる事ができました。

・特にありません。

- ・最近話題になりだしたヤングケアラー、概要がよくわかりました。アンケートの記述であった、当事者のコメントの中に、どう支援するかヒントがたくさん語られていました。大主導にならず、当事者、こどもの声の中から、支援が生まれてこなければと思いました。
- ・医療機関で働いている中でヤングケアラーかな?と思う家庭に関わったことがあります、どのように働きかけをしたら良いのか、問題意識が低かった自分に気付かされました。今回の講演でヤングケアラーの実態と内容、SSWの役割について学ぶことが出来てよかったです。医療機関で働くSWとして自分にできることは何か考えていけたらと思います。
- ・ヤングケアラーの実情や家庭との連携にスクールソーシャルワーカーが重要な役目を担っていることは、理解できた。しかし、現場では、それらへの対応策が重要となる。その点、今回の講座で提案がなされなかったことは、残念である。
- ・ヤングケアラーについて、ケアラー自身がどのように感じているか、や行政としてこれからの支援のあり方などについて、理解することができました。ありがとうございました。
- ・大変わかりやすい内容でした
- ・資料も一緒に見られたのでとても分かりやすくよかったです。知らない事ばかりでした。
- ・ヤングケアラー実態調査結果をわかりやすく説明してもらい参考になりました。
- ・ヤングケアラーの実態を学校の現場で「どう把握」し、「どう支援」していくだけでなく、(日常の雑務に追われがちな状況の中で)「学校が支援していく事の重要性」を理解できる職場の雰囲気づくりが求められる時代になってきていると考える。学んだ内容についてできる限り還元していきたい。
- ・学校だけでなく医療や福祉、その他で関わっている人がヤングケアラーにどう関われるのか、早期発見のためにどんな取り組みを必要としているのかも聞きたかったです。
- ・イギリスでは早くから介護者支援法が制定される動きがあったことに驚きました。日本でも、ヤングケアラーを解消すべく法制度制定の取り組みが必要だと感じましたが、子ども自身は負担に感じながらも誰かに相談することではないと思っている統計結果が非常に興味関心を持ちました。家庭での役割を強要せず、子どもが自身の課題からの逃げ道にならないようにして、家族が健全に機能し、子どもが安心して健康に育っていけると良いなあと思いました。
- ・今回の講座を視聴してみて、日本は昔から家族が介護するのが当たり前、介護をしないと周りから冷たい人だと思われるなどの固定概念が他の国に比べて強いため、介護をしている人への支援が少ないと考える。また、ヤングケアラーの実態把握では、介護をすることに対して特にきつさを感じていないと回答した人が自分の思っていた以上に多くて驚いた。いつも介護しているのが当たり前になっているからこそ、このような回答率になったのかなと思った。また、ヤングケアラーの方たちはこれからずっと介護をしていかなければいけないと思うので、イギリスのように少しでも介護者を支援する法律を作ってほしいと思った。

・ヤングケアラーの子たちが、学校で先生や養護教諭に相談できるように、教育現場で働いている人に対して講座などは行っているのかが気になった。

今後に向けての要望(テーマや内容など)(12件の回答)

- ・発達障害と不登校との関連性に関するお話
- ・校種(小学校、中学校、高校)毎に講座を分けていただいたり、学校としてどのように取り組めんだら良いか具体的手立てを教えていただいたり、実践例等を紹介していただいたりしたいです。
- ・数字よりも顔の見える実態や先行者の話が聞きたいです。
- ・ヤングケアラーと障害、貧困が一体となって、生徒が将来の進学をあきらめざるを得ない状況もあります。18歳が成人扱いになる事で福祉の手が途絶えることもあります。どう公的機関と連携していくか、本校のSSWは行動派なのですが、それでも難しい状況です。また教師の勤務時間もオーバーしないと対応できません。連携についての知恵があれば。
- ・子どもの貧困についての研修
- ・現在、ヤングケアラーの生徒を一人だけ把握していますが、話を聞くこと、スクールソーシャルワーカーへつなぐことはできました。しかし、ミーティングに参加しようと思っても本人は自由な時間がないといひます。ピアノを習っていますが、家で練習ができないと泣いていたこともありました。そして、やっぱり友人に知られたくないと言ひ、親友にも言えず、ストレスの発散ができなくて、ため込んでしまひています。そして時々爆発して泣きます。こんな子たちをサポートする良い方法はないのでしょうか?具体例があるともっとわかりやすいかと思ひます。
- ・リストカットやいじめ、不登校、愛着障害、ゲーム障がいなど、昨今の生徒が直面している問題の実情とそれに対する解決策をご提案して頂けるとうれしひ。
- ・小学校で勤務をしています。スマホやゲーム依存に近い状態に陥って不登校になる児童が増えていひます。その実態や、回復までの支援事例などを知りたいです。
- ・スクールソーシャルワーカーの方と話す機会もないので、直接意見交換してみたい。

社会的養護の課題とケアリーバーの支援など

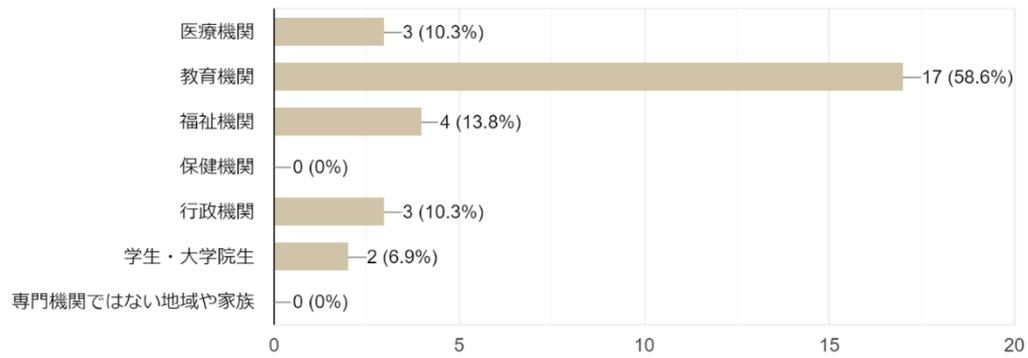
- ・ネット依存

勤務先または住まいの地域

北九州市(4名)、福岡市(4名)、久留米市(2名)、飯塚市(2名)、田川市(2名)、行橋市(2名)
以下1名、糸島市、大牟田市、小郡市、嘉麻市、太宰府市、中間市、豊前市、八女市、大木町、篠栗町、志免町、須恵町、大刀洗町

所属機関について教えてください。

29件の回答



第2回 第1回動画視聴後のZOOMによるオンラインディスカッション

日時(オンラインディスカッション):令和3年11月22日(火)14:00~16:00

(Vimeoによる動画期間限定公開):~令和4年1月31日まで

場所:本学4号館3階健康学習室よりライブ発信「ZOOM利用」

質疑応答:奥村賢一氏(不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ
/福岡県立大学人間社会学部准教授)

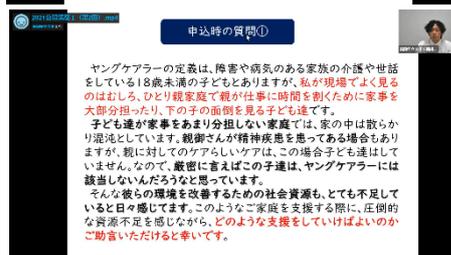
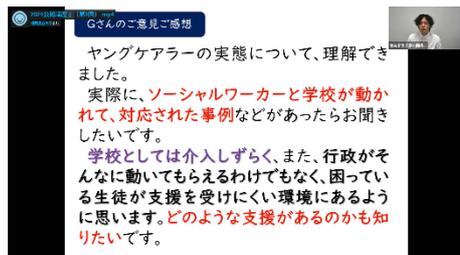
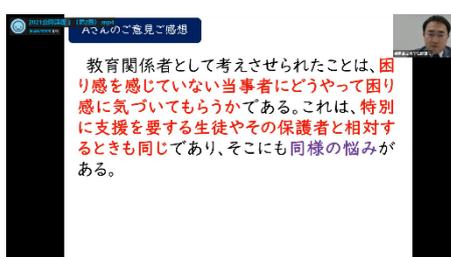
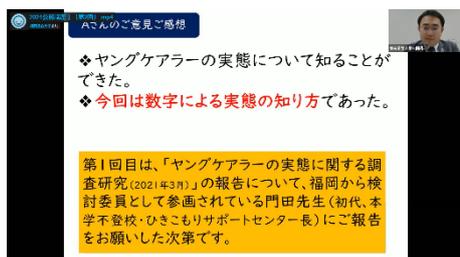
進行:増満 誠(不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ/福岡県立大学看護学部講師)

内容:第1回動画視聴後に寄せられた質問、当日に寄せられた質問への応答を含めたオンラインディスカッション、その後動画限定公開。

参加者:ライブ51名(うち田川市在住・在勤者7名)、限定VOD視聴者40名、計延べ91名

講座概要:当初の予定では、第1回講師による質疑応答であったが、所要により急遽本センター教員スタッフ奥村賢一氏に動画視聴後に寄せられた質問やその場での質問に回答いただいた。事前質問は21件ののぼり、ひとつずつ進行の増満よりパワーポイントで提示し、前半は増満が、後半の専門的な内容は奥村氏が質問に答えながら進めた。質問内容については第1回のアンケート結果及び下記を参照ください。なお、当日の様子は、動画として第1回同様に期間限定配信を行った。

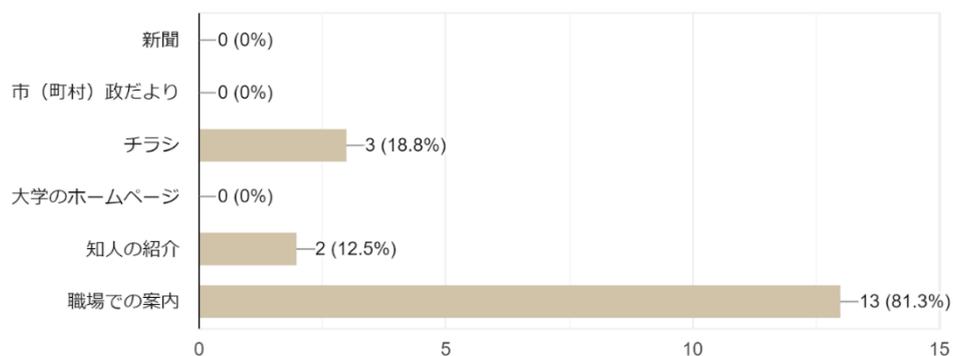
講座風景(ZOOM画面及び事前質問の一部):



アンケート結果(回答者数16名):

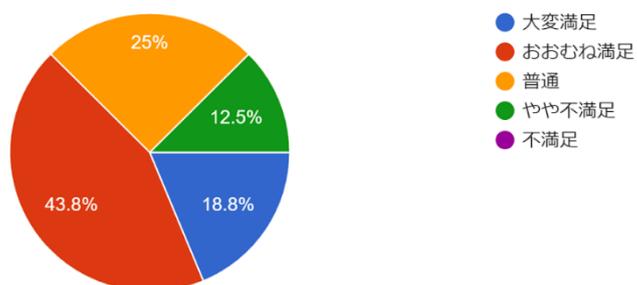
今回の公開講座を知ったきっかけを教えてください。(複数回答可)

16件の回答



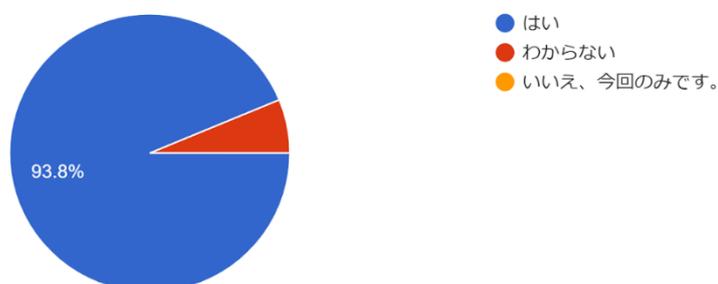
今回の受講講座(第2回)についての印象はどうでしたか?

16件の回答



今後、本学の公開講座に参加したいと思いますか?

16件の回答



第2回目を終えての意見・感想(14 件の回答)

- ・様々な立場で参加者されている皆様の感想や疑問を共有できてよかったです。
- ・それぞれの職場で、「ヤングケアラーをどう早期発見し、どう支援していくのか」という大きな課題について、ほんの少しでもヒントになるものを日々の教育活動を通じて掴んでいきたいと思います。
- ・期末テスト前にやっと時間を空けていただいて参加していただけに、先生がいらっしゃらず大変残念でした。
- ・ヤングケアラーの実態を知ることができました。次回は、実際の事例を踏まえて、早期発見、対応について知ることができればと思います。
- ・ありがとうございました。
- ・事例を出していただいて、たくさんの方の意見を聞いてみたかったです。福岡市に ssw が多いのは、福岡市の民生委員会が市長に2~3 年かけて要望をだしたからです。SSW の存在が子ども達にも先生方にも、もちろん民生委員にもとても必要な存在と7 区一斉に市長との懇談会(7 区の会長が出席)の要望に入れました。1 年目は一桁、2 年目は 20 人くらいだったと思います。3 年目に突然市長から民生委員の要望にの応えてと、中学校区に 1 名の所属を発表されました。継続は力だとみんな嬉んだ記憶があります。ただ、逆に SSW の皆さんが地域や民生委員との連携をどのように捉えているのか聞きたいです。身近な存在に感じたことはありません。
- ・ヤングケアラーも地域として民生委員としてどのように捉えたらいいのかわからないです。
- ・スクールソーシャルワーカーの実態や他市町の取組を知ることが出来て良かったです。
- ・ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。また、1 月楽しみにしております。よろしくお願いいたします。
- ・今日は残念でしたが、今後も頑張ってください
- ・有難うございました。
- ・みなさんと悩みや感想を共有できたと思います。次回の実際の対応、事例について楽しみにしています。
- ・今日の講座は、門田先生のお話をお聞きするということでしたが、急遽、奥村先生のお話をお聞きできることになりました。奥村先生の実践などを以前同僚だった養護教諭の先生からお聞きしたことがありました。今回のお話の中でもあった、子どもたちの居場所づくりをどのようにしたらいいか。とても勉強になりました。
- ・ヤングケアラーの実態についてある程度知ることができました。
- ・オンライン会議の準備等お疲れさまでした。
- ・子どもたちが自分から家庭のことを発信することはとても勇気のいることだと思います。まして、学校などに対して家のことを話していいものかと(関係ないことだと思って)迷っている子どもも多いので

はないかと感じました。また、学校以外に相談できる社会資源の存在をあまり知らない子どもも多いと思われるため、関係機関の周知(知ってもらうこと)に力を入れていくことも必要だと感じました。

・話にもあがっていた「安心できる居場所」の存在は大切だと思います。居場所も学校だけでなく、地域にも広がって行くことで、子どもたちが暮らす市町村全体で見守る体制ができていくのではと感じました。

・sswの養成について質問しようと思っていたのですが、奥村先生の方から説明があり、大変よくわかりました。ありがとうございました。

・福岡県はSSWの配置等頑張っていると思いました。ただ、具体的にSSWがすぐ支援できることは本校ではないです。本人が支援を嫌がりました。

第3回目への質問(4件の回答)

・日頃から地域として、民生委員会としても保育園や小中学校とは連携が取れていると思っています。福岡市もヤングケアラーの相談窓口の設置を突然発表され戸惑いました。皆さんからの子ども達の相談事や連絡は、関係機関につないでいたつもりでしたが、支援を途中でやめたのはなぜか?と報道機関から聞かれたときは返答に詰まりました。これは一生を背負うということでしょうか?地域として、民生委員としてどこまで関わる事ができるでしょうか?そんなに思いつめた現状なのでしょうか?12月2日の人権研修後に何か府に落ちない状況が続いています。ご指導よろしく願いいたします。

・次回を知らせがあると言われていましたように、スクールソーシャルワーカーの個別の取組について教えていただきたい。

・次回、20歳後半になっても、ヤングケラーのような状況が続いている患者さんへの看護アプローチについて、質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

・第3回目への質問ではないのかもしれませんが、中学校にSSWの籍があり、小学校には、週に1回先生方からの話を聞きに来るようなシステムになっています。私は、立場上、子どもたちから様々な話を聞くことがあり、要対協の家庭やそれ以外にも気になる子どもから聞いた家庭状況や子ども自身の思いなどを、SSWに情報提供することが多くあります。その情報提供をしたことで、SSWが私たちの意図しない動きをし、子どもや家族との信頼関係が切れてしまうのではないかという状況になった経験があります。一度切れてしまった子どもや家庭との信頼関係を再構築することはとても難しいので、学校としてどうするのか…と本当に悩んだことを覚えています。私たち教員は、家庭に入り込んで支援をしていくこともありますが、限界があります。だからこそ、子どもの出しているヘルプにSSWとチームとなって解決できるようにしたいと考えています。その後は、子どもとの信頼関係を取り戻すことができたのですが、今後、子どもからの情報があつた場合に、本当にSSWへ話をして大丈夫なのか…という気持ちになりました。子どもとだけでなく、SSWとも信頼関係を築いて子どもたち

のために支援をしていきたいと思っておりますが…情報提供や情報共有、みんなが同じ方向を向いて支援をしていくことの難しさを痛感しました。すみません。私の経験談になりましたが、情報提供や共有をする時に、他市町村の方々はどういった取り組みをされているのかと思いました。

今後に向けての要望(テーマや内容など) (1件の回答)

- ・アダルトチルドレン
- ・メンタライゼーション

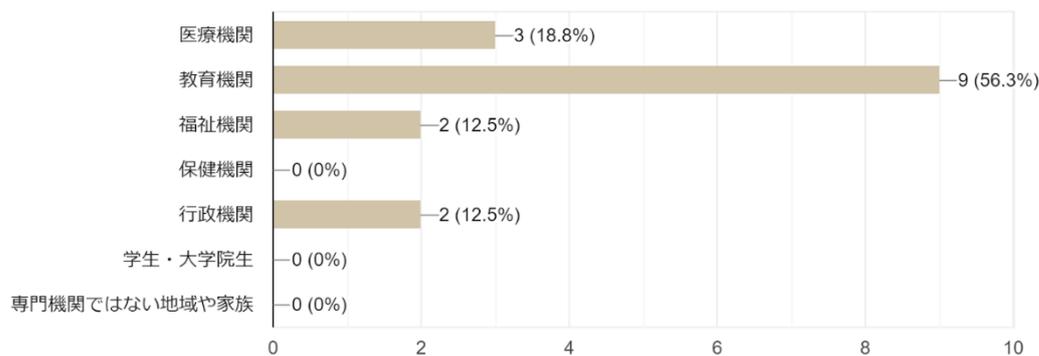
勤務先または住まいの地域

田川市(2名)、福岡市(2名)、八女市(2名)、田川郡内(2名)

以下1名、小郡市、北九州市、豊前市、行橋市、宮崎県小林市、大木町、新宮町、大刀洗町

所属機関について教えてください。

16件の回答



第3回 3名の講師による実践報告並びに第1回講師を含めたオンラインディスカッション

日時(オンラインディスカッション):令和4年1月13日(木)14:00~16:00

(Vimeoによる動画期間限定公開):~令和4年2月28日まで

場所:本学4号館3階健康学習室よりZOOMライブ発信

講師:高口恵子氏(大牟田市子ども未来室子ども家庭課課長)

高口恵美氏(福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー)

坂口明夫氏(社会福祉法人甘木山学園子ども家庭支援センターあまぎやまセンター長
/大牟田市子ども支援ネットワーク会長)

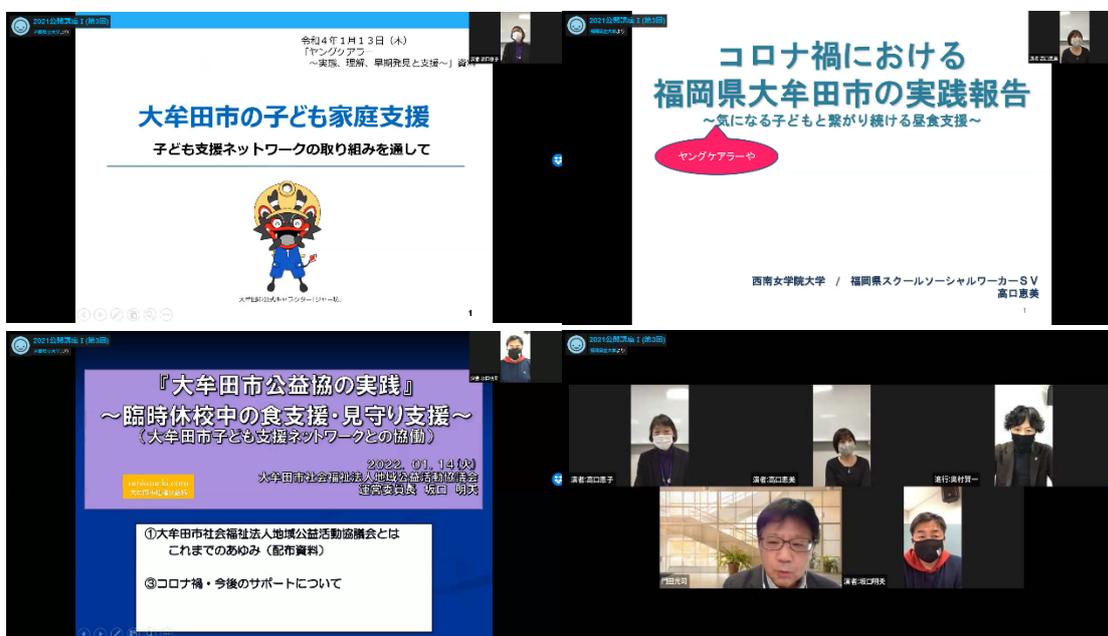
門田光司氏(久留米大学文学部社会福祉学科教授)

テーマ:「ヤングケアラー~実態、理解、早期発見と支援~」

参加者:53名(うち田川市在住・在勤者5名)、限定動画視聴者数28名、計延べ81名

講座概要:3名の講師のそれぞれのお立場から大牟田市での実践と現状の報告が行われた。その後、3名の講師に門田氏を加え総合討論を行った。大牟田市におけるそれぞれの実践と連携から見えるヒントと課題を共有することができた。なお、第3回についても事後限定配信を行った。

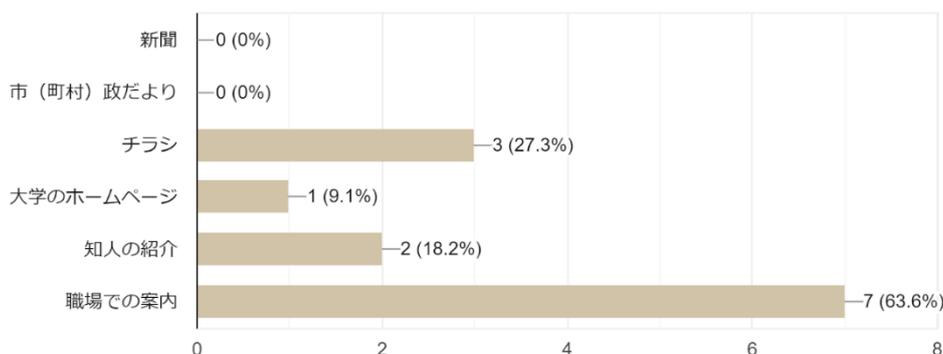
講座風景(ZOOM画面):



アンケート結果(回答者数14名):

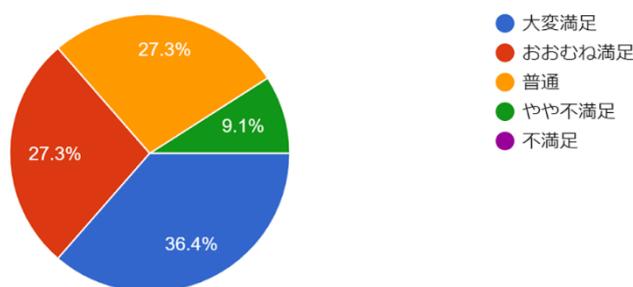
今回の公開講座を知ったきっかけを教えてください。(複数回答可)

11件の回答



今回の受講講座(第3回)についての印象はどうでしたか?

11件の回答



第3回目についての意見・感想(9件の回答)

- ・質問に、丁寧なご返答をいただきました。有難うございました。
- ・ヤングケアラーに対する支援に多くの立場の関わりあることがよくわかりました。大牟田での取り組みに感化され、活動を始める地域が増えることを期待します。
- ・大牟田市の取り組みが知れてよかったです。
- ・休校中、どんな生活をしているのか気になる子どもがたくさんいました。
- ・安否確認の視点からも、食事提供支援はどこ市町村でもあってほしいと思いました。
- ・ヤングケアラーについて、学校でできる対応をもう少し知りたかったです。
- ・連携の大切さ、チャレンジすることの勇氣、心に留めて業務に当たっていきたいと思います。
- ・学校だけでなく、行政や社会福祉法人の連携の部分をお話いただき参考になりました。

・ヤングケアラーの取り組み事例として大牟田市の取り組みについて発表がありました。こんな取り組みが出来ればと思います。ただ、この取り組みについては、様々な人や機関が協力の必要性を感じて、そしてこの取り組みにつながったものになっていると受け取ることが出来ました。本校の場合、支援の必要なヤングケアラーが、今、現在本校の中にいるという状態でない為、職員の意識も薄く、支援態勢づくりがなかなかすすみません。このような研修を職員に還元し、地道に下地をつくっている段階です。これからも様々なご指導をよろしくお願いいたします。毎年、公開講座を参加させていただいています。ありがとうございます。

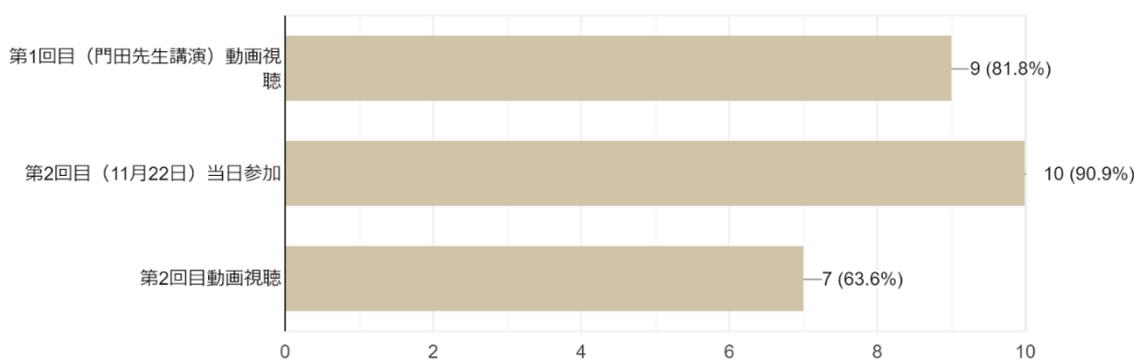
・音声が聞き取りにくかった。ボリュームは最大にしていたのですが・・・話すときはマスクを外したほうがよかったかも。

・音声が聞きづらく聞き取れなかった。

・質問に、丁寧なご返信ありがとうございます。

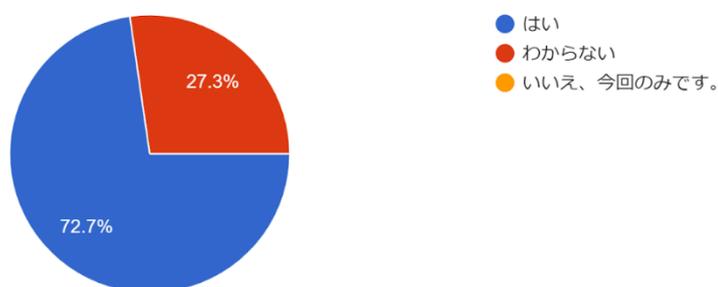
2021年度の公開講座の参加状況を教えてください。

11件の回答



今後、本学の公開講座に参加したいと思いますか？

11件の回答



今後に向けての要望(テーマや内容など)(7件の回答)

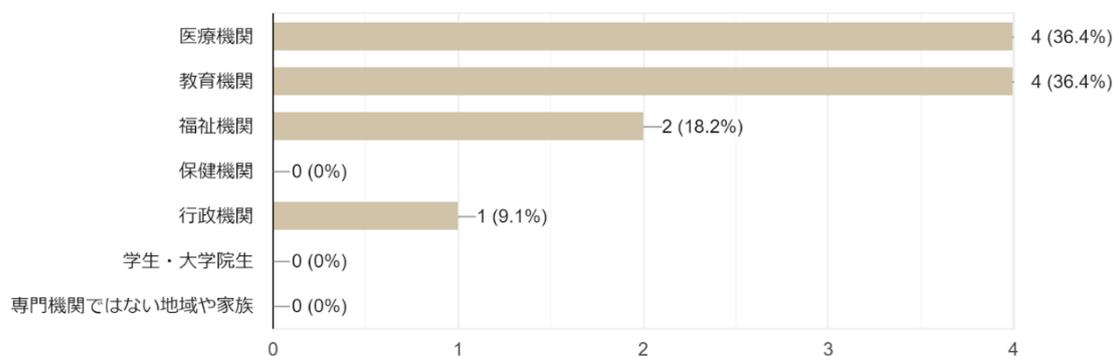
- ・トラウマ アダルトチルドレン うつ
- ・資料などもっと早めに送付してほしい。
- ・学校としてできる支援や学校の役割についてわかるものがあると拡がりが出てくるとおもいます。
- ・不登校や引きこもりに関して、教育と福祉で連携した取り組み等を聴いてみたいです。
- ・発達障害等様々な支援を必要とする人たちが、このコロナ禍の中でどのような支援ができれば効果的なのか、という事に気づくためのヒントになる研修を受けたいです。
- ・コロナ禍の中で「見えないストレス」が溜まっていき、支援を必要とする人が「従来出来ていたことが出来なくなった」りしているケースがある。どう支援していったら良いのか、日々考えています。
- ・ソーシャルワーク以外の視点も取り入れた内容にしてほしい

勤務先または住まいの地域

行橋市(2名)、宮崎県小林市(2名)、以下1名、北九州市、田川市、直方市、豊前市、宗像市、糟屋郡、新宮町

所属機関について教えてください。

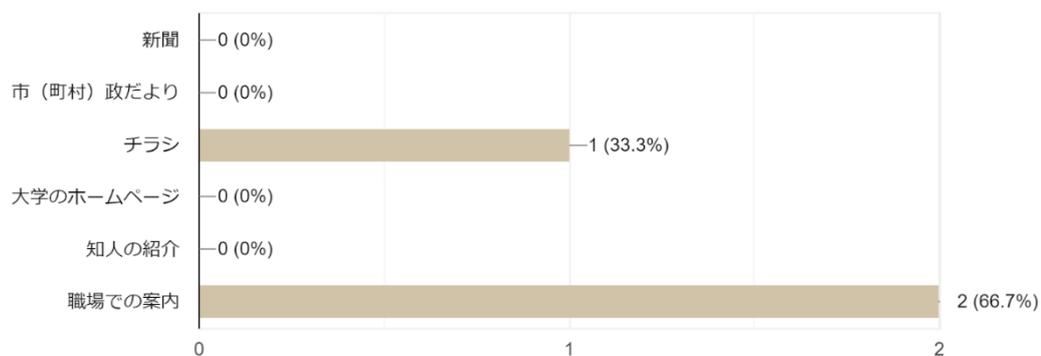
11件の回答



視聴後アンケート(回答者数)

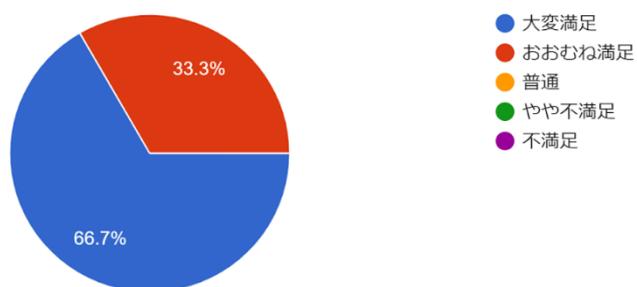
今回の公開講座を知ったきっかけを教えてください。(複数回答可)

3件の回答



今回の受講講座(第3回)についての印象はどうでしたか?

3件の回答

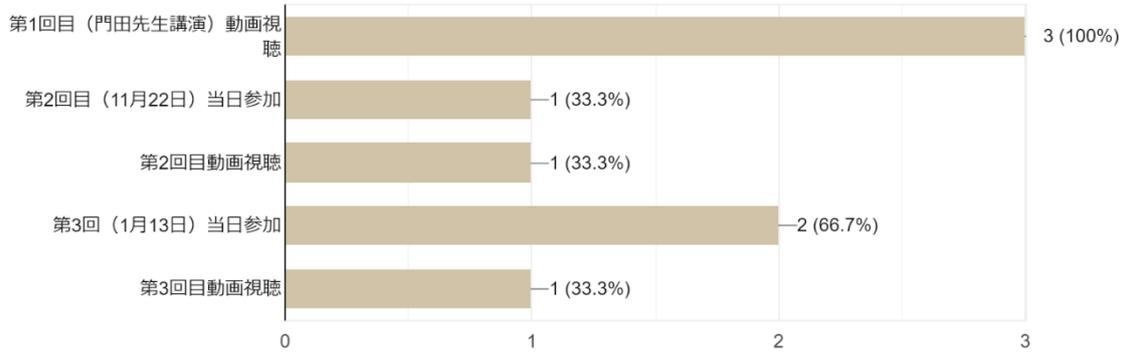


第3回目についての意見・感想(1件の回答)

・大牟田市の実践的取り組みを知ることができ、とても勉強になった。

2021年度の公開講座の参加状況を教えてください。

3件の回答



今後、本学の公開講座に参加したいと思いますか？

3件の回答

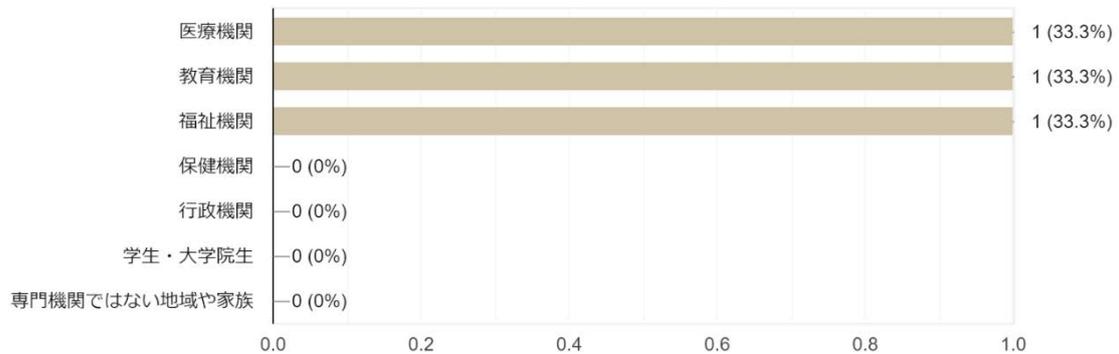


勤務先または住まいの地域

飯塚市、福岡市、志免町

所属機関について教えてください。

3件の回答



おわりに

2021年度も昨年度に引き続き、感染症拡大予防からオンラインでの開催となりました。昨年度同様に第1回目は、事前録画による動画配信を行い、第2回目にその動画を視聴したうえで寄せられた質問に対する回答と討論、そして第3回目では実践報告と総合討論を行いました。

動画であることで繰り返し視聴できること、参加者の都合の良い時間で視聴できること、オンラインであることで移動の時間が短縮できることなど多くの利点はあるものの、疑問解決へのタイムラグや、講座へ参加しているという緊張感や臨場感が不足することは否めませんでした。また、第2回目では、急遽応答者の変更などもあり、前半は十分に回答できずご迷惑をおかけしました。後半は、奥村先生に加わっていただき、第一線で活躍され、SSWの養成にも携わる視点から、事前質問・当日の質問にも丁寧かつ知己に富む回答をいただきました。また、進行との掛け合いの中で、福岡県のSSWの配置状況など、市町村による相違や課題もあることが分かりました。第3回目では、大牟田市での取り組みについて、行政、SSW、支援者それぞれのお立場から実践報告をいただき、連携の在り方、コロナ禍での工夫などを共有し、討論の中でも3名の繋がり、連携の良さが伝わってきました。総括として、門田先生からもコメントと締めくくりをしていただき全3回を終了することができました。

参加者は総数248名にのぼり、アンケートは延べ59名から回答をいただきました。アンケートでは一定の評価をいただきましたが、次年度もさらに実のある内容と、動画配信や当日のライブ配信のシステムも整え展開してまいりたいと思います。

参加の皆さま、講師の皆さま、サポートセンターの皆さま、ご協力ありがとうございました。

引き続き、不登校・ひきこもりサポートセンターへのご理解ご協力をよろしく申し上げます。

文責：不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ 公開講座担当 増満 誠

2021(令和3)年度 福岡県立大学 公開講座Ⅰ 不登校・ひきこもりサポートセンター主催
「ヤングケアラー～実態、理解、早期発見と支援～」(全3回)報告書

発行日 2022年3月9日発行

発行 福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター

編集 増満 誠(センター教員スタッフ公開講座担当)

発行所 〒825-8585 福岡県田川市伊田4395番地

福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター
